

感染拡大予防対策について

運営上の感染予防対策として、山新スイミングアリーナとも協力し、会場の3密回避、消毒薬の用意、時間差でのアップなどを行います。

それに加えて、感染から選手・関係者を守るためには、選手・関係者のみなさんの協力が必要です。

以下は、大会開催の際の感染予防のためにしていただくことのチェックリストです。よく読んで、ご協力をお願いします。

大会実施にあたっての基本的な考え方について

- ① 感染源を絶つ
- ② 感染防止の3つの基本 ○ 身体的距離の確保 ○ マスクの着用 ○ 手洗い等の徹底
- ③ 3密(密閉空間・密集場所・密接場面)の回避
- ④ 安全な活動環境の確保

感染拡大防止策チェックリスト

【選手・監督・引率者】

1 大会前

- 選手は、参加初日に①「健康チェック表及び参加同意書」に必要事項を記入し、持参すること。2日目以降は②「【別紙1】健康チェック表及び参加同意書」に必要事項を記入し、持参すること。持参しない選手は大会に参加できない。
- チーム引率者は、個人の「健康チェック表及び参加同意書」を確認してとりまとめ、③「【別紙2】健康チェック表」を当日学校受付に提出すること。
- 水泳用具・飲食物・ストレッチマット等は、専用の物を用意し共用しないこと。
- 会場までの移動中は、マスクの着用、人との距離、座席間の距離、車内換気、会話などに留意すること。バス利用の場合は、密にならないよう人数に留意すること。
- 入場待ちの時間は、マスクを着用し、間隔を空け、会話を控えて待つこと。

2 競技場

- 体調が悪くなったら、すぐに引率者、大会本部に知らせること。
- 泳ぐとき以外は原則的にマスクを着用すること(更衣室・招集所・選手控え場所・観覧席・プールサイド・トイレなど)。招集もマスクを着用する。熱中症に留意し、マスクをとる場合は、周りの人との距離を十分に保つこと。
- 引率者は、選手控え場所・観覧席・更衣室の利用方法をチームに周知し、徹底すること。
- 入館から退館までの全ての場面で、人との距離(できるだけ2m以上、最低1m)をとって行動すること。
- こまめな手洗い、会場に設置及び各都県で用意したアルコールによる手指消毒を実施すること。
- 選手は、できるだけ、自分のレース終了後(ダウン終了後)速やかに所定の待機場所に移動すること。
- ミーティングは控えること。
- 大会運営者・施設管理者が決めたその他の措置・指示について従うこと。
- 更衣室は着替えのみに使用し、速やかに着替えて滞在時間を必要最小限とすること。ロッカーは使用しないこと。
- 更衣室のドライヤーは使用しないこと。
- アップ時に、各レーン内で順番待ちをする場合や、ダッシュレーンで並ぶ場合も距離を保つこと。
- レース前に外したマスクは、服のポケットか袋に入れること。
- 服を入れる袋を持参すること。(レース時、袋に衣服・マスクを入れ、脱衣ボックスに入れる。直接入れないこと。)
- 選手は、招集所での選手間の会話、レース後の選手間の会話を控えること。
- 唾や痰を吐くことは極力行わないこと。
- 選手控え場所・観覧席で、人との距離・座席間の距離を保つこと。(使用禁止表示がある座席は使わないこと)
- 大きな声での会話や応援をしないこと。
- 飲食については、できるだけ単独でとること。複数で食事をする場合は、できるだけ広がって距離をとり、対面とならないようにし、会話を控えること。
- ドリンクの回し飲みはしないこと。
- 飲みきれなかったドリンクは、捨てずに持ち帰ること。

3 大会後

- 大会開催後も自身の体調管理に努め、体調の異変があった場合は、医療機関や保健所に相談した上で適切に対応し、参加校から大会本部等に報告する。
- 大会終了後2週間のうちに、大会に参加した関係者が陽性と判明した場合、参加者は別紙3「行動記録表」を速やかに提出する。④「【別紙3】行動記録表」は、少なくとも1か月以上顧問が保管する。

